

食文化創造都市にいがた推進計画 令和4年度進行状況報告書

令和5年11月 食と花の推進課

1. 本計画について

「食文化創造都市にいがた推進計画」は、食で選ばれるまち・にいがたを目指すため、本市の強みである食や食文化の素晴らしさに目を向けると共に、これらを産業の活性化や交流の拡大などにつなげることを目的に平成29年3月に策定された。

本計画期間は令和5年度までである。

2. 参考指標について

本計画は事業ごとに達成目標を設定し、達成状況を調査しているが、計画全体の社会への影響等を確認するため参考指標を設定し、毎年度調査することとしている。

なお、参考指標は関連計画の成果指標から選定。

3. 令和4年度事業数について

計画策定時（平成29年3月）の事業数は86事業、令和4年度の食文化関連事業は56事業で各施策別の内訳は表1のとおりである。

また、評価別の内訳は表2のとおり、「A:目標を上回った」が22、「B:目標通り実施できた」が16、「C:目標を達成できなかった」が14、「D:実施しなかった」が1、「その他」が3となった。また、表3のとおり、D評価の事業は新型コロナウイルスの影響により中止となった。実施した事業を含めると、新型コロナウイルスの影響を受けた事業数は14と、全体の25%となった。

目標を上回った、及び目標通り実施できた事業の割合は全体の68%となり、前年の令和3年度と比較して約26%増加した。新型コロナウイルス感染症による影響が長期化しているが、感染拡大防止対策等を講じながら実施した事業が多かった。

4. 評価及び所見について

本計画の指標となる事業は、食や食文化の普及に関するイベントが多く、昨年度同様、コロナ禍で通常どおりの実施は難しかった中でも、定員を減らして開催した事業や、オンラインによる開催などが見受けられた。また、SNSを活用した情報発信も行われており、コロナ禍において工夫しながら事業が進められていた。

実施した事業の約7割は目標以上の実績であり、今後は新型コロナウイルス感染拡大前と同程度以上の成果が得られるよう事業を進めていくことで、本計画の目指す将来像を実現できると考えられる。

表1 事業数(各施策別)

施策 No. (将来像-施策)	施策名	H28 (計画策定時)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち								
1-1	食への理解の促進	15	13	15	12	11	9	8
1-2	食を生かした健康づくり	8	5	4	5	5	5	5
1-3	食文化の次世代への継承	13	9	7	7	7	7	7
将来像1 小計		36	27	26	24	23	21	20
将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち								
2-4	地域の魅力の向上	11	11	11	9	10	9	7
2-5	ガストロノミー ツーリズムの構築	5	5	5	5	5	3	3
2-6	他都市への発信と 都市間連携	5	4	5	4	4	4	4
2-7	国際交流の促進	6	6	5	5	5	4	4
将来像2 小計		27	26	26	23	24	20	18
将来像3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち								
3-8	新たな挑戦への支援	16	14	12	12	13	13	13
3-9	さまざまな分野への 食の活用	7	7	5	5	5	5	5
将来像3 小計		23	21	17	17	18	18	18
事業数計		86	74	69	64	65	59	56

表2 令和4年度事業数(評価別)

評価	事業数
A:目標を上回った	22
B:目標通り実施できた	16
C:目標を達成できなかった	14
D:事業を実施しなかった (新型コロナウイルスで中止した場合を含む)	1
その他:実施したものの、新型コロナウイルスの影響で目標設定ができず、評価できない	3
事業数計	56

※施策1～9の合計値。

表3 影響度別 新型コロナウイルス感染症影響事業数

一部影響（延期・一部中止・内容を再検討した等）*	13
中止（今年度の開催を完全に中止）	1 (=表2：D評価)

※ヒアリング結果に基づいて計上。

※*一部影響事業数は、内容を変更して実施した事業や延期した事業を含むため、表2：A評価・B評価・C評価・その他が混在している。D評価は含まない。

新型コロナウイルス感染症影響事業に関するヒアリング内容の一部抜粋

《対策を講じたもの》

- ・（新潟シティマラソン）エイド食の提供は、新型コロナウイルス感染食拡大予防のため、個包装とした。
- ・（新潟シティライド）エイドステーションでの密を避けるため時差受付・スタートとするなど新型コロナウイルス感染症対策をとり、食を提供した。

《手法を変更したもの》

- ・（食と健康フォーラム）コロナ禍により、公開収録と収録動画の配信からウェブ配信に変更。
- ・（西区の農業まつり）規模を縮小して実施した。

《中止したもの》

- ・（農・福連携事業）コロナの影響で実施を断念した。

5. 各施策の進行状況

将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち

施策1	食への理解の促進
主な取組	若手料理人の育成支援 食と農のわくわく SDGs 学習推進事業
進行状況	地産地消や食育の推進など、市民の食への理解を深める取り組みを進めている。 「食と農のわくわく SDGs 学習推進事業」は農業や食関連産業を支える人材づくりにつなげるため、モデル校での実践事例の取りまとめを行った。
目標の達成度	令和4年度事業数 8事業 A: 目標を上回った 3事業 B: 目標通り実施できた 3事業 C: 目標を達成できなかった 2事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の事業のうち、「料理教室」は、目標値としていた実施回数を大きく上回った。 B評価の「食と農のわくわく SDGs 学習推進事業」は令和4年度新規事業であり、目標通り5件の実践事例を作成した。今後は実施校数の増加に取り組む。 C評価の「地産地消推進事業」は目標値の新規認定数15件を下回り、認定件数は1件であった。

施策 2	食を生かした健康づくり
主な取組	新潟市健幸づくり応援食品認定制度 ちよいしおプロジェクト
進行状況	脳血管疾患および胃がんの原因の一つとされる食塩の過剰摂取に対応するため、「ちよいしおプロジェクト」、「食生活改善推進委員養成講座・研修会」を継続実施するなど、市民の食を通じた健康づくりの意識を高める取り組みを行った。
目標の達成度	令和4年度事業数 5事業 A: 目標を上回った 1事業 B: 目標通り実施できた 1事業 C: 目標を達成できなかった 3事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「ちよいしおプロジェクト」では、飲食店との連携による野菜ちよいしおメニューを7,860食提供し、減塩に関する情報を20回発信した。中食については新潟県事業を活用し取り組みを展開していく。 C評価の「農産物高付加価値化推進事業」では、目標の4件には届かなかったものの、新潟市産大豆を用いた堅豆腐の製造方法の開発等2件の支援を行った。

施策 3	食文化の次世代への継承
主な取組	地場産学校給食推進事業 レシピ集の活用
進行状況	地場産給食の推進、料理教室や郷土料理のレシピ集の活用など、次世代へ食文化を継承する取り組みを進めている。また、中央区の伝統的産品である発酵食を次世代へ普及促進し、産業振興を図る取り組みも行われていた。
目標の達成度	令和4年度事業数 7事業 A: 目標を上回った 2事業 B: 目標通り実施できた 3事業 C: 目標を達成できなかった 2事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	B評価の「農業活性化研究センターにおける研究」は、大学との共同研究数が目標通り9件となり、今後も企業等のニーズに即した共同研究を実施する見込みである。 C評価の「地場産学校給食推進事業」では、供給側と現場での認識の違いや供給体制の課題など地域や施設ごとに抱える問題が異なることから、地場産率の向上のために統一した方策がとりにくい状況である。関係者との連携を通じて、新たな施策を検討していく。

将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち

施策4	地域の魅力の向上
主な取組	農家レストランの設置 農業体験観光ツアー
進行状況	各区が主体となって地域の特産品や食産業のPR、体験事業などを行っている。 北区産業振興課では「キテ・ミテ・キタクとまとキャンペーン」としてラジオやテレビでトマトのPRを、西区農政商工課では「農業まつり」として、すいかの収穫期に合わせてすいかまつりを実施した。
目標の達成度	令和4年度事業数 7事業 A: 目標を上回った 1事業 B: 目標通り実施できた 4事業 C: 目標を達成できなかった 2事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	B評価の「キテ・ミテ・キタクとまとキャンペーン」では、目標通りPRを実施したものの、効果が限定的との課題があり、今後は効果的で安価なPR方法を検討する。 C評価の「収穫体験農園」は目標値3回に対して、2回の実施となった。受け入れ農家の負担軽減策を検討することで、今後も継続して実施していく。

施策5	ガストロノミーツーリズムの構築
主な取組	観光客おもてなし態勢促進事業
進行状況	食と農と様々な地域資源を結び、地域の魅力を一体的に体験できる新たな観光形態「ガストロノミーツーリズム」の構築を図るため、魅力発信・誘客推進事業などに取り組んできたが、新型コロナウイルスの影響により、目標設定が困難となる事業もあった。
目標の達成度	令和4年度事業数 3事業 A: 目標を上回った 1事業 新型コロナのために評価できなかった 2事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「米と酒を中心としたプロモーション事業」は新型コロナウイルスの影響により、様々なプロモーションの機会が失われたが、状況は改善しつつある。 「観光客おもてなし態勢促進事業」、「魅力発信・誘客推進事業」は新型コロナウイルスの影響により、評価できなかった。

施策 6	他都市への発信と都市間連携
主な取組	特産品・土産品の振興 特産農産物の PR・情報発信
進行状況	他都市へ向けた食の魅力のプロモーションや市産農産物などの販路拡大、他都市と連携した食の販路拡大・魅力発信に取り組んでいる。新型コロナウイルスの影響により、目標設定が困難となる事業もあった。
目標の達成度	令和 4 年度事業数 4 事業 A: 目標を上回った 2 事業 B: 目標通り実施できた 1 事業 新型コロナのために評価できなかった 1 事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A 評価の「特産農産物の PR・情報発信」では、SNS フォロワー数を指標とし、SNS を活用し情報発信を行った。 新型コロナウイルスの影響により評価できなかった「特産品・土産品の振興」では、百貨店側が以前ほど大規模な物産展を開催しない傾向にあるものの、市名産会と連携して百貨店での物産展で観光パンフレット配布により PR を行った。

施策 7	国際交流の促進
主な取組	食の国際見本市「フードメッセ in にいがた」
進行状況	インバウンドの拡大、農水産物及び加工食品輸出を狙い、海外向けプロモーションや商談会などを開催した。
目標の達成度	令和 4 年度事業数 4 事業 A: 目標を上回った 3 事業 B: 目標通り実施できた 1 事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A 評価の「フードメッセ in にいがた」は、来場者目標を達成し、今後は 2019 年の開催規模への回復を目指す。 B 評価の「食の新潟国際賞」は第 7 回食の新潟国際賞を開催し、5 名が受賞した。

将来像3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち

施策8	新たな挑戦への支援
主な取組	技術開発補助事業 6次産業化サポート事業
進行状況	技術開発補助事業などにより、食に関わる事業者の商品開発、販路拡大などの取り組みを支援している。国家戦略特区による規制緩和については新たな設立企業等はなかったものの、新規規制緩和事項の提案を行う予定である。
目標の達成度	令和4年度事業数 13事業 A: 目標を上回った 7事業 B: 目標通り実施できた 3事業 C: 目標を達成できなかった 3事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「技術開発補助事業」は、補助金採択件数が令和3年度の3件から10件へと増加し、支援事業者が設定した目標の達成割合は100%となった。 C評価の「6次産業化サポート事業」は、8件の伴走支援を行ったが、実施事業者の事業目標達成状況が低いので、今後は伴走型支援の充実を図っていく。

施策9	さまざまな分野への食の活用
主な取組	12次産業化推進事業
進行状況	本市の豊かな食を支える農業を様々な分野へ活用するほか、文化芸術、スポーツといった食以外の分野においても食の活用を進め、食分野の魅力と発信力の向上を図った。
目標の達成度	令和4年度事業数 5事業 A: 目標を上回った 2事業 C: 目標を達成できなかった 2事業 D: 事業を実施しなかった 1事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「12次産業化推進事業」は、農業と他分野の連携プロジェクト数が131件となり、目標値を上回った。 C評価の「新潟ヒルクライム」は、新型コロナウイルス対策を講じた上でエイド食を提供した。 D評価の「農・福連携事業」は、新型コロナウイルスの影響で実施を断念した。